

令和3年度 上武大学 大学院 経営管理研究科 シラバス

講義番号	授業科目名	財務会計特論 A		担当教員	白山 真一		
	英語授業科目名	Financial Accounting A		単 位	2	学 期	前期
対象年次	1・2年次	クラス指定	なし	他との関連	租税法特論 A,B		
履修条件	財務諸表論・簿記論などの基本的な理解を有していること						
テーマ・副題	会計学の基礎概念及び会計制度の理解と応用						
授業の教育目的・目標	我が国の企業会計制度は、会社法・金融商品取引法・税法（特に法人税法）の各法規の関連のもとで形成されており、また、国際財務報告基準の影響も受けている。このような環境下において会計学の基礎概念や制度内容などがして発展してきており、それらを正確に理解することが重要となる。例えば、税務上の判例研究等に際しても、会計学の基礎概念等の理解のうえで解釈を深めることが重要であり、このような総合的な力を養成することを教育目標とする。						
授業の理解度の到達目標	単に、会計制度や各種法制度の表層的な理解をするのみではなく、その根底にある会計学の基礎概念や会計理論を理解できるようになること。つまり、“こんな会計制度がある、こんな会計処理がある”という知識の習得レベル（いわば資格取得のための勉強レベル）ではなく、“それらの制度はなぜ形成されたのか、どんな論理整合性を有するのか”といった点についての理解力・課題発見力を養うことを到達目標とする。						
授業キーワード	概念、フレームワーク、企業会計基準、国際財務報告基準（IFRS）、会社法、金融商品取引法、税務会計						
授業の内容	授業参加者と協議して、授業参加者のレベルに応じた会計学の基本書もしくは理論書をテキストとして選定して授業を進める。財務会計特論 A では、会計学の基礎概念や会計学の理論的な考え方の習得を中心として進めるため、やや抽象的な議論が多くなるが、会計専門紙や新聞紙上等で最近において話題となっている諸課題なども積極的に取り上げて検討することとしたい。						
授業の方法	大学院レベルの基本テキストを定め、その基本テキストのテーマに沿った最近の実例なども取り上げながら、発表と討論形式で授業を進める。						
授業展開	<p>以下を想定しておくが、受講者の要望などを踏まえた協議のうえで変更する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 財務会計の機能と制度 3. 会計基準の設定および演繹的アプローチ（会計公準論、概念フレームワーク論） 4. 企業会計原則の一般原則①（真实性の原則、正規の簿記の原則、資本・利益区分の原則等） 5. 企業会計原則の一般原則②（明瞭性の原則、継続性の原則、単一性の原則等） 6. 会計情報の目的及び質的特性 7. 現金主義会計と発生主義会計 8. 収益・費用の認識概念（発生概念、実現概念） 9. 測定概念①（入口価格） 10. 測定概念②（出口価格） 11. 資産負債アプローチと費用収益アプローチ 12. 財務諸表の構成要素 13. 財務諸表の体系、包括利益概念、クリーンサープラス関係 14. タイムリーディスクロージャー、遡及修正 15. まとめ 						
成績評価方法	授業への取組み姿勢・発表内容（50%）及びレポート内容のレベル（50%）などを総合的に判断して評価する。						
成績評価基準	総合点が80点以上をA,79~70点をB,69~60点をC,それ以下をDとする。 なお、欠席が1/3以上の場合は、Eとする。						
テキスト	受講者と打ち合わせのうえで決定する。						
参考図書	授業の中で指示する。						
準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な	テキストおよび参考資料の復習・予習を通じて、各自疑問点などを明確にして、毎回出席すること。 また、発表者は、発表担当部分を十分に理解したうえで、レジュメを作成して所要部数用意しておくこと。						

学習内容				
学生へのメッセージ	企業会計に興味をもっている学生であれば、どなたの参加でも歓迎します。授業参加者のこれまでの学習レベルに応じて授業内容を検討します。			
オフィスワーカー	主に以下に示したメールにより質問等をうけることとする。			
連絡先	電話番号	0274-42-2828 (内線：407)	メールアドレス	shirayama@jobu.ac.jp
人数制限	特に定めない。			